

第9回薩摩川内市行政改革推進委員会 会議録

開催日時	平成 29 年 11 月 1 日(水) 13:30～16:30	
開催場所	薩摩川内市役所 603 会議室	
出席者	委員	外菌会長、仙波副会長、田島委員、宮元委員、石原委員、小平委員
	事務局	行政改革推進課長、同課長代理、同課職員
	傍聴者	なし

□会次第

開会	主管課・室
1 開会	
2 補助金等評価	
(1) 川内駅前イルミネーション事業補助金（第7回委員会分）	観光・シティセールス課
(2) 川内大綱引補助金（第7回委員会分）	観光・シティセールス課
(3) 女性（婦人）団体運営補助金（第8回委員会分）	社会教育課
3 補助金等評価とりまとめ	
4 閉会	

□議事

1 開会

○会長

（挨拶）

2 補助金等評価

(1) 川内駅前イルミネーション事業補助金（第7回委員会分）

（主管課説明後、質疑・協議）

○会長 消耗品であるLEDイルミネーション電球の購入について、毎年同じくらいの費用が掛かっている理由の説明をお願いします。

●主管課 LED電球は電気料等が安く、長持ちするのが特徴であるが、破損しやすいのは通常の電球と同じである。本事業においては、LED電球を9万球ほど設置しており、約40日間屋外で点灯することで、風等で毎年、定期的に四分の一程度を取り替えている状況にある。毎年同じくらいの

費用がかかっている理由は、消耗・破損が主な理由である。

○委員 白色のイルミネーションがほとんどで、あまり魅力を感じない。素敵だと思われるような配色を工夫されてはどうか。イルミネーションを見に観光客を呼び込むぐらいの気持ちで取り組むべきである。

●事務局 毎年イルミネーション点灯の時期が来るのを楽しみにしているとの声が多いと感じている。

●主管課 点灯式など一日で3千人が集まるイベントも開催している。また、川内商工高校の生徒にバッチをデザインしていただき、寄付をしていただいた方に事務局からプレゼントするなど、自己資金調達など努力している面もある。

○委員 バッチのデザインは一つの学校だ

けでなく、様々な学校に呼びかけることを要望したい。

○**会長** 現状に満足することなく、今後もイルミネーション事業を盛り上げてほしい。

○**委員** 地域活性化のためにも薩摩川内市がイルミネーションのまちとなるよう期待したい。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**委員** 出店や屋台を出すなど工夫するとともに、イベント等を実施するなど、観光客を呼び込める取り組みをしてはどうか。また、他市の事例を参考に、カラフルなイルミネーションに取り組んでみてはどうか。

○**会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(2) 川内大綱引補助金(第7回委員会分)

(主管課説明後、質疑・協議)

○**会長** 平成28年度は100万円補助金が減額となっている理由の説明をお願いします。

●**主管課** 平成28年度は個人の方の寄付が200万円ほどあるということが事前に分かっていたため補助金を100万円減額した。なお、平成29年度は例年同様の金額である1,000万円になっている。川内大綱引は伝統行事としても、イベントとしても市にとっては重要で、県指定文化財にもなっている。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

2 補助金等評価

(3) 女性(婦人)団体運営補助金(第8回委員会分)

(主管課説明後、質疑・協議)

○**外園会長** 女性団体連絡協議会(通称:女団連)と地域女性団体連絡協議会(通称:地女連)の両団体の活動内容の違いについて、再度説明をお願いします。

●**主管課** 活動内容を補足する。女団連の活動内容は、女性団体の情報交換並びに連絡調整、団体相互の資質の向上を図るための研修、交通安全意識の高揚を図ることなどである。地女連の活動内容は、女性の地位向上に関する活動、地域女性連相互の親睦及び地域社会との交流を目的とする活動などである。2団体とも女性の地位向上と女性活躍を目指すという主旨に変わりはない。

○**委員** 女団連に加入している19団体の名称が分かる資料を提供してほしい。

●**主管課** 資料(今年度から18団体)を提供する。資料を見ていただくと分かると思うが、女団連に加入していない女性団体もある。

○**委員** 鹿児島県単位で考えると女団連と地女連はどのような関係となっているのか。

●**主管課** 鹿児島県女性団体連絡協議会という組織があり、県全体の女性団体を取りまとめている。その会長は鹿児島県地域女性団体連絡協議会の会長が兼ねている。県では、県女団連の中に県地女連が入ってい

る状況である。

○委員 県とのつながりを担うとともに、地域に根差した活動を行っているのが地女連であるが、組織自体が低迷してきている現状がある。

●主管課 女団連はいろいろな目的を持った女性団体を束ねている団体である。地女連は県からの縦の流れの一つの団体である。委員ご指摘のとおり、樋脇、祁答院が脱退するなどの現状がある。

○委員 市の地女連と言いながらも加入しているのが、現時点で入来だけなのが問題である。

●主管課 これまで市の立場としては、両団体の統合等の状況を見守るという姿勢であったが、今後は、様々な女性団体を育成するとともに、組織を再構築するようなことも手助けしていく時期が近づいて来ているのではと考えている。

○会長 両団体が同じ目的で活動しているのかは疑問である。補助金自体を団体ごとに分けられないのか。

●主管課 県と同様、女団連の中に地女連に加入していただき一緒に活動していただくことが理想であるが、これまで説明してきたとおり、現実的には厳しい。

○委員 考え方が異なるので、現時点では不可能であると理解している。

○委員 女団連と地女連の二つの組織をどのようにしていくのか、これからの課題であると感じた。

●主管課 担当課としては現状のまま継続させていただき、これまで同様、見守っていきたいと考えている。

○会長 補助金額は減額してきている状況ではあるが、特に、低迷してきている地女連の活動については注視する必要があると感じた。

(まとめ)

○会長 本補助金の外部評価の視点別評価

について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○委員 2つの女性団体について整理を行い、当面は、両団体の統合及び両団体の活動を注視するといった二つの視点で担当課も関わられたらどうか。

○会長 前回の委員会でも出された意見で、補助対象経費ではない役員手当に補助金を充当することがないよう、自己資金を確保されたいとの意見とあわせて、まとめに記載したい。

3 補助金等評価とりまとめ

(個別の評価表の確認、とりまとめ)

○会長 今回で、全ての補助金等(68補助金等)について評価を終了した。他の補助金と比較して評価の再検討、または個別の評価表に対し意見を追加・補足する必要はないか確認していただきたいと思う。

○補助金番号9 文言の統一が必要である。「平成」を追加する。

○補助金番号14

今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「見直しの上で継続」で「縮小」という評価であるにもかかわらず、まとめに記載事項がない。縮小の意見を具体的に付すべきである。

市の所管課の意見と同様、効率的な運用に取り組まれたいと意見を付す。

○補助金番号16、17、18 測定するよう要望したいではなく、測定するよう検討されたいと文言を訂正する。

○補助金番号30 何パーセントを整備するなどではなく、具体的な数値を示すなどと文言を訂正する。

○**外菌会長** 個別の評価表に対して、他にないか。

○**委員** 意見なし

○**会長** 今回評価を行った3つの補助助金等について、まとめ欄の確認を行う。

○**補助金番号57** 主管課によるイベント等の実施等により、人を呼び込める取り組みをされたいとの意見と他市の事例を参考に、カラフルなイルミネーションにも取り組まれたいとの意見でとりまとめる。

○**補助金番号58** 特になし

○**補助金番号66** 2つの女性団体について整理を行い、当面は、両団体の統合及び両団体の活動を注視するといった二つの視点で担当課も関わられたいとの意見と補助対象経費ではない役員手当に補助金を充当することながないよう、自己資金を確保されたいとの意見でとりまとめる。

○**会長** それでは補助金等評価の個別の確認は以上とする。続いて、事前に送付されていた報告書案の内容に移る。

●**事務局** それでは、お渡ししております報告書について、事務局から変更点等を読み上げて提案をし、皆様のご意見を伺いたい。

(報告書の項目変更について)

●**事務局** それでは、お渡ししております報告書について、事務局から説明する。資料の構成について、一部項目変更を行った。平成28年度の報告書と比較していただくと5ページの「ウ まとめ」の内容を削除している。理由としては、1ページの「はじめに」と4ページの「総括」と内容の重複があったためである。

○**会長** 「まとめ」がないと、評価書全体のまとめがなくなると感じる。

○**委員** 「まとめ」はその年度の評価結果なので、報告書の“結論”というべき大切なところである。やはり、スタンダードな形が良いではないか。

○**委員** 「はじめに」とあるからおかしいと

感じるのではないか。

○**委員** 「はじめに」は行政改革推進委員会がこのような考え方で評価を進めましたよ、との道筋を示すもので必要である。

●**事務局** 4ページの「総括」がその年度の報告書の一番大切なポイントであると考えている。「総括」と「まとめ」のどちらが大切か、内容が重複しているのではないかと日頃から意見があったことが項目変更を検討したきっかけである。

○**委員** 「総括」と「まとめ」が重複しても構わないと思う。昨年度と同じ構成が良いのではないか。

○**委員** 昨年度報告書の「ウ まとめ」では目立たない。工夫できないか。

○**委員** 「総括」と「まとめ」が重複すると報告書としては分かりにくい。(1)を「総括」を「評価内容」に、(2)「今後の評価に当たって」を「今後の評価の在り方」に変更し、(3)「まとめ」とされたら良いのでは。

○**委員** 異議なし

○**委員** 4ページの最後の段落等は「まとめ」の方に記載し、報告書のまとめとしたらどうか。内容が一部重複しても構わないと思う。

○**委員** 異議なし

●**事務局** 意見を踏まえて改善したい。

(報告書1ページ)

●**事務局** はじめにの内容構成を説明する。行政改革推進委員会がどのような考え方で評価を進めてきたのかを記載した。

○**委員** 意見なし

(報告書2・3ページ)

●**事務局** 変更点のみ説明する。評価対象の補助金等の件数を修正した。補助金等評価の進め方でヒアリングと書類審査の2つの方法を具体的に記載した。

○**委員** 意見なし

(報告書 4・5 ページ)

●**事務局** 補助金等評価の結果の概要を説明する。まず、今回の評価結果は「現状のまま継続」が約 8 割であったが、主管課自ら改善していこうという姿勢が見られたと記載した。また、全体の評価を通して、「検証の重要性」、「市民目線での補助金等交付」、「自助努力」、「補助金等の有効活用」の 4 点を記載した。

○**委員** 補助金ありきで活動している団体があると感じた。補助金をもらうこと自体が目的となっていないか。団体設立時はもっと自助努力していたはずで、目的がずれてきている補助金等もあると感じた。補助金を受けるために存続しているような団体もあり、もう一度、設立時に立ち返って目的を見直し、活動されるべきである。

●**事務局** 報告書 4 ページの補助金等評価の結果に意見を反映させたい。

○**委員** 最後の段にある「効率的な行財政運営と市勢発展につながることを期待する」という文言は今年度のまとめとしてはとても良いと感じた。

(報告書 6 ページ (まとめを記載予定))

●**事務局** 質疑等を踏まえて、まとめを記載する予定である。昨年度は「選択と集中」というキーワードで取りまとめた。評価を通して、何か追加したいキーワードがあれば、ご教示をお願いしたい。

○**委員** 事務局に一任する。

(その他)

●**事務局** 他に意見等はないか。

○**委員** 地域政策課の「市民活動支援補助金」はスタートアップコースとステップアップコースを選択でき、また、外部の有識者で構成される選考委員会にて審査されるなど、とても良い補助金である。

○**委員** 報告書にもあるとおり、少子高齢化

に向けた対応は喫緊の課題。行政改革推進委員会の役割は、補助金額を減らすことではなく、有効的に活用させるよう筋道をつくることである。また、行政改革推進委員会の意見等によって地域格差が解消されるよう期待したい。

○**会長** 以上、項目ごとに皆様の了解を得ながら報告書を取りまとめさせていただきました。ここまでの部分で、皆様からご意見はないか。

○**委員** 意見なし

4 閉会

○**事務局**
(挨拶)